

こがねい

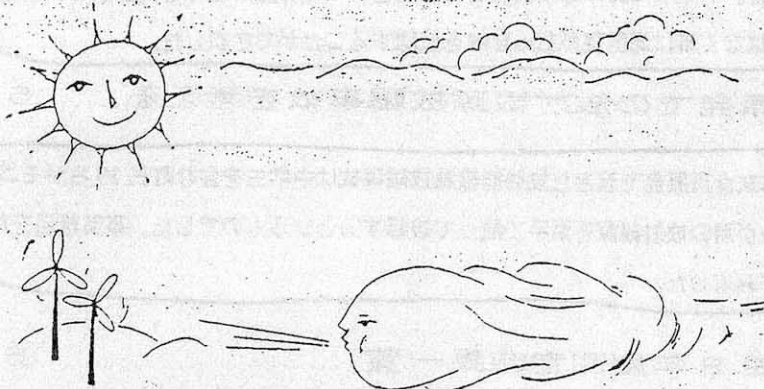
1999.4.

第6号

# 放射能測定室だより

発行：川金井市放射能測定器運営連絡協議会  
連絡先：川金井市 緑町 2-14-29-12  
Tel. 042-386-5730 (荒木)

毎年お届けしている「測定室だより」も今号で6号を数えます。おかげさまで私達協議会も実り多い一年を終え、新会員を迎えて新しい年度のスタートを切ろうとしています。今年度もどうかよろしくお願いたします。



昨年の消費者展においては、自然エネルギー発電をとりあげた広河隆一さんによる写真を展示致しました。太陽光発電や風力発電のほかに地熱発電、潮汐発電等々自然の持つエネルギーをうまく発電に生かした発電施設の写真を見ることができました。阪神大震災でライフラインがストップした際、自然エネルギー発電による電気が役に立ったという話は初めて知りました。海外では随分開発、実用化が進んでいるようです。



## もくじ

### ● 定例会 100 回を迎えて ..... 3

協議会の発足より私達は毎月一回の定例会を持ち、次の月の測定体制を整え、測定結果を検討して参りました。今年3月でその定例会も第100回を迎えました。8年半に渡るこれまでの活動が100という数字に表われたことに私達は大きな喜びをかくせません。

### ● 『行政とともに進める市民運動』

#### —安藤多恵子さんのお話を聞いて— ..... 4

昨年11月に市民エネルギー研究所の安藤多恵子さんを講師にお招きし、〈市民運動と行政のあり方〉をテーマにドイツの現状を例にとってお話していただきました。ドイツにおける市民運動、労働をめぐるお話はとても興味深く、また、都ではなく市に測定室がある意味を確認することができました。

### ● 女川原発での放射線源被曝事故を考える ..... 5

昨年末女川原発で起きた放射線源被曝事故は中学生を含む町民19名がモニタリング用の放射線源を素手で触って被曝するというものでした。事実経過をたどってみました。

### ● 1998年度測定結果一覧 ..... 6

### ● ポルチーニ茸を測ってみました ..... 7

昨年の測定室だよりで輸入された乾燥ポルチーニ茸から基準値以上の放射能が検出されたという新聞記事を紹介しました。その後私達はいくつかこの食材を測定してみました。

### ● はかってほしい時は? ..... 8

## 定例会 100回を迎えて

定例会が 100 回になると気づき、古い資料をひっぱり出してみました。1989～1990 年の間、協議会が設立するまでの間の様々な話し合いの記録、意見交換、文書交換、チラシ、メモ書きが出てきました。それだけ活発な運動があったからでしょう、いろいろ思い出します。第一回定例会は 90 年 7 月 21 日。その議事録を見ると、おまつり、講演会の準備等話し合われています。定例会の記憶は議事録を読んでもちょっと思い出せませんが、その他の紙、たとえばメモ書きに当時の会話が聞こえてきそうです。いろいろな人に会いました。何度も話し合いました。そうした中で、放射能測定室運営準備会が出来、今の協議会が設立し、定例会を毎月開いていくことになりました。

第一回から第百回まで話し合われていることは、そんなに変化はないでしょう。ひたすら会の運営について話し合っています。こうして 100 という数字をみつめると、よく続いて来たなあ、と自分達を誉めてあげたい気持ちでいっぱいです。

月並みな表現ですが、ここまで続くとは思いませんでした。一人一人の力でここまで引っ張って来たと思います。皆さん、これからもどうぞよろしく。



協議会会長 荒木 牧子

## 『行政とともに進める市民運動』

—市民エネルギー研究所員 安藤多恵子さんのお話を聞いて—

環境対策の先進国として知られるドイツですが、その施策には行政と市民の協力が大きな力になっているようです。お話の中から2つだけ紹介すると、大きなものでは『原子力政策』です。チェルノブイリ事故当時のドイツでは、放射能に対する警戒心は、日本よりもずっと薄かったそうです。それが市民が情報を得ることによって、最初は安心して粉ミルクを与えたいという小さな運動が起こり、だんだんに大きくなって国の政策として脱原発を決めるところまでできました。

小さなものでは、日本でも導入の待たれるデポジット制。ある州ではこの値段を決めるのに、市民、企業、行政が話し合って2年かかって、商品の半額と決めたそうです。

このようなお話を聞くと、「うらやましー、でも日本じゃとても」と思ってしまふ、私たちの行政に対する深い不信感。それは水俣病をはじめとする今までの公害問題で、いつも被害者の救済を遅らせてきた『お上』のやり方を見てきたせいなのですが、この不信感をなくすには、「徹底した情報の開示しかない。また開示される情報はデータの取り方等が、比較検討できるものでなければならない」という安藤さんの言葉に、改めて情報公開の意味に気づきました。

ドイツの学校では言葉の教育をととても重視していて、ある言葉の意味がそこにいる皆の共通の認識になるまで徹底して話し合うそうです。事実を正確に把握することを大事にするのです。そのような土台があるので、行政と市民が情報を共有して、問題解決のために話し合うことができるのでしょう。政策を話し合う場に市民が参加できるシステムがつくられているのだそうです。ドイツでは行政は「自分たちのすることを、代わりにしてくれる機関」なのです。

お話を聞いて、私たちはまず『情報』『言葉』をきちんと扱えるようになることが、市民、行政を問わず、話し合いで問題を解決しようとする時に最も基本的なことでは？と思いました。「こうしてあと10年続けられたら本物になります。」と励ましのお言葉もいただき、明日からの元気のもとになるお話でした。

## 女川原発での放射線源被曝事故を考える

昨年末の、女川原発のモニタリング用放射線源で中学生9名、教師6名含め19名の方たちが被曝した事故は、次のような経過をたどって起きました。

- まず、モニタリングポスト（原発周辺の放射線を測定する機械）の点検のために必要な放射線源（放射能を一定量もっている物質）を、業者が鉛容器に入れたままモニタリングステーションの外に放置していた。そこは中学生たちが自由に近づける場所であり、その鉛容器をさわっている内に蓋がはずれ、中の線源が出てしまった。
- その後気づいた業者が探してみたが線源が小片でもあり見つからず、教師と生徒達30名に探してもらった。線源は生徒たちによって見つけ出され、その際素手で持って生徒から教師、業者へと返されたために被曝したという。
- さらにこの出来事を説明するために女川町へ行った原子力センターの所長が危険はないとしてこの線源を町職員に手渡したために、またここでも4名の町職員が被曝してしまったというものである。

これは長年、原子力防災を考え続けてこられた富山在住の山本定明さんからいただいた資料に基づいたものです。山本さんがおっしゃるようにこの経過の各局面で見えてくるものは、「異常事態を想定する能力の欠如」であり、「放射線被曝の危険を重視することの欠落」であると言えます。「小さな事故であっても、それによって被曝した人にとっては、大事故での被曝と本質的に同様」であるという山本さんの言葉に全く同感です。

今回の事故をきっかけに、教育の現場から原子力防災を見直してほしい、自分たちの命や生活を自分たちで守るということをもう一度考えてみてほしい、そしてそのことが原発を選択しない町づくりへとつながってほしい、と考えます。

被曝した若い中学生たちに何の影響も出ないことを心から願っています。

# 【1998年度 測定結果一覧表】

(1998. 4月～1999. 3月)

測定品目	個	原産国	測定結果
乳製品 (牛乳・スキムミルク 加工パウダー・粉ミルク・バター)	10	日本・フランス	放射能は検出されませんでした
きのこ (干し椎茸・アガリクス ポルチーニ茸・原木まいたけ)	6	日本・ブラジル・中国	〃
(ポルチーニ茸)	1	イタリア	58ベクレル/kg
(ポルチーニ茸)	1	イタリア	82ベクレル/kg
(ポルチーニ茸)	1	イタリア	45ベクレル/kg
海藻 (寒天・海苔・とろろ昆布)	3	不明	放射能は検出されませんでした
小麦粉 (即席麺・スパゲッティ マカロニ・うどん)	5	韓国・イタリア・不明	〃
ワイン	2	イタリア・加州&日本	〃
飲料水	1	フランス	〃
ブルーベリーエキス	1	アメリカ	〃
卵 (鶏・うずら)	2	日本	〃
きのこご飯の素	1	日本	〃
アーティチョーク	1	イタリア	〃
ポップコーン	1	日本	〃
オリーブオイル・オリーブの実	2	イタリア・ブラジル	〃
トマト水煮	1	イタリア	〃
ぜんまい水煮	1	中国	〃
紅茶・麦茶	3	インド・日本	〃
鳥ときのこのトマトソース煮缶	1	不明	〃
あじ干物・ししやも・かつお節	3	不明	〃
チェリージャム	1	フランス	〃
リゾットソース	1	不明	〃
寒天	1	不明	トラブルにより 測定できませんでした

計 50 件

(他に保育園・学校の給食材を30件測定)

☆セシウムはチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能です。

(過去のピキニや中国での核実験により地表に蓄積されている放射能でもあります。)

☆NaI 検出器にて6時間測定しました。

★ポルチーニ茸について…98年1月、厚生省はイタリアから空輸された食用きのこの乾燥ポルチーニ茸 (ヤマドリタケ) から基準値を超える1キロあたり 731ベクレルのセシウムを検出し積み戻しを指示したとの新聞報道がありました。人気食材ということもあり、市内で購入し測定してみました。

## ポルチーニ茸を測ってみました。

'98年1月、厚生省はイタリアから輸入された食用キノコの乾燥ポルチーニ茸から基準値を超える1キロあたり731ベクレルのセシウムを検出し積戻しを指示した、との新聞報道がありました。基準値を超える食品が見つかったのは'94年以來のことだそうです。私たちはこの乾燥ポルチーニ茸をいくつか購入し、測定してみました。中国産のものからは検出されませんでした。イタリア産と明示されたものからは比較的低い値でしたが、検出を確認しました。(6ページの表を参照下さい。)今後も気になる食品については重点的に測定を続けていきたいと考えています。



- ♥ 協議会では会員を募集中です。興味のある方、一緒に活動してみませんか？
- ♥ 見学、お問い合わせ等もお気軽にどうぞ！
- ♥ 食品の測定<sup>依頼</sup>以来はいつでも受け付けています。測ってみたい食品がありましたら、ぜひお寄せ下さい。

# ▶ 測定依頼をお寄せください!!

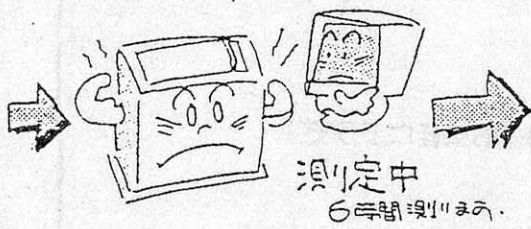
申し込み方法等は

です。よろしく  
お願いします!

なお、実際に測定にかかわりたい方、  
また協議会に参加したい方、いつでも募集して  
いますのでご連絡ください。大歓迎です。

## はかってほしい時は

- ① 市役所 経済課に問い合わせの  
でんわをしてください。  
042-383-1111  
内線 279 (経済課)
- ② 測定日の指定が  
あります。  
CAOB  
にお願い  
ください
- ③ 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を  
上原会館 に持ち、協議会関係者に  
わたします。(※検体は早かくくだしておくこと)
- ④ 受付票に  
必要事項を記入。
- ⑤ 夕方、検体を引き取りに来てください。  
測定結果を記入した通函書をお返しす  
ください



※ 370ml以上が検出された場合は別途、  
精密測定を行ないますので、無  
したいただいた検体は返却できません

★ 200ccの容量が必要です。  
(スリムタイプは150gのりなど  
生しりすけは210gのり)など  
物によって重さが異なるので  
協議会に問い合わせてください。

★ 食品に限ります。

★ 無料です。

